



令和6年度 第1回高岡市介護支援事業者部会研修会 能登半島地震でのケアマネジャーの体験談 ～その時、あなたはどう動きましたか～



研修の目的

令和6年1月1日、「能登半島地震」が発生し、前例のない大地震は県内に大きな影響を与えました。

本部会では、令和5年度にBCP作成や机上訓練等について学び、有事の際にどのように行動していけばよいかを考えてきました。

今回の震災で特に被害が大きかった氷見市と伏木地区の事業所の皆様が直面した課題や実際の対応について学び、今後の災害対策に活かしていくことを目的として、8月7日にオンライン研修会を開催しました。

市内の被災状況



特設の周辺道路の凍結や降雪状態
一部でも甚大な被害と断水の発生

山間部の道路寸断による給水の困難

対応を振り返って(包括支援センターの視点)

命の危険がなかった
断水が長期化しなかった
市内一部エリアの被害だった

●応援要請の必要性

- ・母体法人の対応に追いついた。
- ・安易に安否確認ができなかった。
- ・避難所に応を運ぶためのではないか。
- ・(福祉避難所が必要な人のビッグアップが上手くできなかった。)
- ・(包括と高岡市として相談が重複した。)

災害を経験し見えてきた課題①

- ・大津波警報により、多くの一般住民が福祉施設に自主避難
- ・施設としての機能(人等への避難)への影響
- ・指定避難所としての機能への影響
- ・高齢者(高齢者・障害者・子どもなど)への長期的な支援
- ・声をあげられない人 被災住宅に住み続ける人・住み始めた人
- ・避難経路の確保・再建
- ・被害が大きかった地区における人口均等 コミュニティの構築
- ・避難所の避難計画

講義の内容

4事業所5名の方に講師を依頼し、講義をしていただきました。

震災時の対応について、実際の事例を通して、活用できたもの、できなかったこと、これがあればよかったなど、具体的な内容をお話していただきました。

【講師】

- ①氷見市地域包括支援センター 所長 蟹谷江里子 氏
- ②万葉居宅介護支援事業所 管理者 松谷三和 氏
- ③伏木・太田地域包括支援センター 上田智美 氏、奥田友美 氏
- ④居宅介護支援事業所あいの風二上事業所 上野浩美 氏

震災体験に基づく課題と対応

指定避難所の開設や指定避難所以外に自主的に避難されるケースがありました。しかし、断水や避難所での混乱など、多くの課題があったことが報告されました。

【実際に感じた課題】

- 大津波警報が発表され、福祉施設に多くの住民が自ら避難された。そのため福祉施設の機能に影響があったこと。
- 災害弱者や支援が必要な方について、事前に関係機関で情報共有をしておく必要があったこと。
- 避難計画とBCPの強化について、避難方法や安否確認の方法を事前に決めておくこと。BCPの定期的な見直しと全職員の共通理解が不十分であったこと。

【今後の対応策】

- 避難場所と避難経路の確認をすること。
- 全職員がBCPを共通理解すること。
- 関係機関と情報共有をして、情報を素早く把握すること。
- SNSやデジタルツールの活用が重要であること。

4. ケアマネジャーができること

- 利用者様の安否確認
- 利用者様の困りごと確認
- 警報から、災害についての意識醸成
- EX:ケアプランに含む
- EX:緊急連絡先を2か所以上確保
- EX:避難用具の提案
- EX:必要な物品が依頼できるように...
- 地域の方と訓練
- 職種こだわらず、様々な職種の方とつながりを持つ
- 風化されないように



今回は体験談を通じて得られる知識や経験が、今後の防災対応に大いに役立つ研修となりました。参加された皆様の災害対応やケアマネジメントに役立つことを願っております。
ご参加いただき、ありがとうございました。